

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

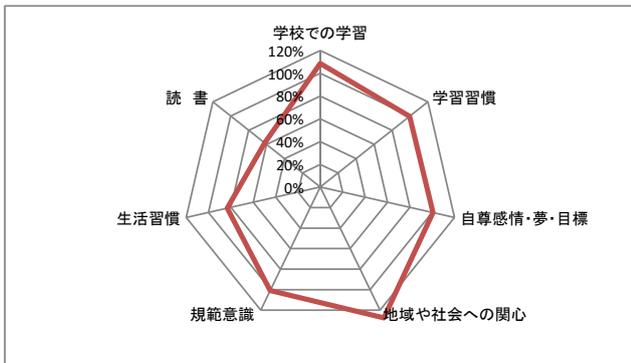
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	全国平均正答率を下回っていますが4領域のバランスがよく、大きく下回る領域はありません。記述式の問題についての正答率は低いです。しかし、無回答率は全国より低く、最後まで粘り強く問題を解こうとする態度が育っています。	下回っている
算数	全体的に全国平均正答率を下回っていますが、「図形」と「数と計算」の領域については全国平均正答率との開きが見られます。記述式の問題については無回答率が全国と同様に高くなっています。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○自尊感情・夢・目標について肯定的な回答をした児童の割合が高く見られます。各教科で自尊感情を高めるような指導・道徳科での学習・キャリア教育等が成果を上げていると考えられます。

○地域への関心も高く、今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合が全国平均を上回っています。地域と学校が協力して児童を育てている成果が表れていると考えられます。

○生活習慣については、家で自分で計画を立てて勉強している児童は多く見られますが、1日の学習時間については、全国平均を下回っています。起床や就寝時間等も全国平均より若干下回り、一日にゲームをする時間が一時間を超えている割合が高く見られます。就寝時間等に影響していることが考えられます。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○国語科では、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約したり、漢字を文章の中で正しく使ったりすることに課題が見られます。他の学習も含め、既習の漢字を文章の中で使うこと、目的に応じて必要な情報を整理し、まとめられるように指導していきます。

○算数科では、図形領域、数と計算領域に課題が見られます。授業改善を図るとともに、補充学習時間(計算タイム)等で個別に課題に取り組めるよう、学習プリントやICT等の活用の工夫をしていきます。

○「何ができるか」「できることをどう使うか」を自覚できるように、引き続き、授業の最後に振り返りを必ず書くようにします。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習・自主学習の取組が定着しつつあります。内容がよいノートやまとめ方が上手なノートを掲示し紹介することで、児童が今以上に意欲的に取り組んだり、自主学習の質を向上したりすることができるようになっていきます。一方、学級で差異が生じないように、学校全体で取り組んでいるという意識をもたせるようにします。

○挨拶・早寝早起き朝ご飯・読書の大切さや・規範意識の育成、スマートフォンの使用時間等を、今後も家庭や地域に啓発していきます。